

「令和の日本型学校教育」の実現に向けた
通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議

東京都立高等学校

「チャレンジスクール」

小学校・中学校において、
能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、
自分の目標を見付け、チャレンジする学校

令和4年2月21日
東京都教育庁都立学校教育部

目次 Contents

1 都立高等学校の種類

2

チャレンジスクールの設置

- I 背景
- II 都立高校改革推進計画
- III チャレンジスクールの設置状況

3

チャレンジスクールにおける教育

- I 基本的枠組と特徴
- II 学びの特徴、系列の設置
- III 相談機能の強化
- IV 特徴的な取組

4

チャレンジスクールの今

- I 入学者選抜応募倍率
- II 中途退学率と不登校出現率の推移
- III 進路実績の推移

目次 Contents

1 都立高等学校の種類

2

チャレンジスクールの設置

- I 背景
- II 都立高校改革推進計画
- III チャレンジスクールの設置状況

3

チャレンジスクールにおける教育

- I 基本的枠組と特徴
- II 学びの特徴、系列の設置
- III 相談機能の強化
- IV 特徴的な取組

4

チャレンジスクールの今

- I 入学者選抜応募倍率
- II 中途退学率と不登校出現率の推移
- III 進路実績の推移

1 都立高等学校の種類

I 全日制

(令和4年4月1日時点)

(1) 普通科 124校

進学指導重点校 7校

難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学を目指す

進学指導特別推進校 6校

国公立大学や難関私立大学等への進学を目指す

進学指導推進校 12校

生徒の着実な学力の伸長を図り進学実績の向上を目指す

エンカレッジスクール 4校

小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育てる学校

(2) 専門学科

農業科 8校

農業分野のスペシャリストを育成

工業科 16校

工業各分野で活躍できる技術者を育成（エンカレッジスクール2校含）

ビジネス科 7校

「ビジネスを考え、動かし、変えていく」人材を育成

産業科 2校

広い視野を持った起業家や自営業の後継者を育成

海洋国際科(水産科) 1校

海洋課題に対応できる人材を育成

家庭科 7校

調理、保育、服飾など生活産業のスペシャリストを育成

福祉科 2校

社会の援助者として行動できる人材を育成

国際科 1校

国際社会で活躍できる人材を育成

科学技術科 2校

実験や研究を通じて科学技術を学び、理系大学などへの進学を目指す

ビジネスコミュニケーション科2校

英語とビジネスの学習を重視し、文系大学などへの進学を目指す

創造理数科 1校

理数系分野の素養育成に重点を置き新しい価値を生み出す人材を育成

体育科 2校

スポーツ・保健体育に関する実践・指導者として活躍する人材を育成

芸術科 1校

芸術の発展に寄与する人材を育成

(3) 総合学科 10校

自らの将来の進路について深く考え、多様な選択科目の中から進路希望に応じた科目を履修し、職業決定に必要な能力や態度を育成

1 都立高等学校の種類

II 定時制・通信制

(4) 夜間定時制高校 41校(全日制併置校含む)

- ▶ 勤労青少年など昼間に通うことができない生徒の学習機会を確保する役割を担う（昭和50年代中頃まで）
- ▶ 現在では、不登校経験がある生徒や全日制高校を中途退学した生徒、外国人生徒、特別な支援を要する生徒など、在籍生徒が多様化

普通科 24校

農業科 5校

工業科 10校

商業科 4校

産業科 1校

総合学科 2校

(5) 昼夜間定時制高校 6校

- ▶ I部（午前部）、II部（午後部）、III部（夜間部）から、自分のライフスタイルに合わせや学習ペースに合わせて通学可能な定時制高校
- ▶ 1学級30人規模、基礎・基本を重視した授業を実施
- ▶ 習熟度別授業や少人数授業など、きめ細やかな授業も実施
- ▶ 職業に関する専門科目や、デザイン・ビジネス・ファッション等特色ある科目も選択可能

部	I部				II部				III部			
時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時間帯	8:50～12:25				13:10～16:45				17:20～21:10			

普通科 6校

情報科 1校

情報分野のスペシャリストを育成

(6) チャレンジスクール 6校

- ▶ 小・中学校での不登校経験や、高校での中途退学経験のある生徒が、自分の目標を見つけ、チャレンジする高校
- ▶ 基礎・基本重視の学習、心のケアに配慮したきめ細かな指導・豊かな人間性を育成
- ▶ 学力検査ではなく、生徒の学習や学校生活への意欲を重視した入学選抜を実施
- ▶ 他部履修により3年間での卒業も可能

目次 Contents

1 都立高等学校の種類

2

チャレンジスクールの設置

- I 背景
- II 都立高校改革推進計画
- III チャレンジスクールの設置状況

3

チャレンジスクールにおける教育

- I 基本的枠組と特徴
- II 学びの特徴、系列の設置
- III 相談機能の強化
- IV 特徴的な取組

4

チャレンジスクールの今

- I 入学者選抜応募倍率
- II 中途退学率と不登校出現率の推移
- III 進路実績の推移

2 チャレンジスクールの設置

I 背景

都立高校の課題（都立高校改革推進計画(平成9年度策定)）

- (1) 生徒の多様化への対応
- (2) 社会経済の進展への対応
- (3) 生涯学習社会への対応
- (4) 少子化による生徒数の減少への対応

課題(1) 生徒の多様化

生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望の多様化

→将来の生き方を主体的に考える意欲を育てることが必要

対応策

特色ある学校作りの推進

- ・既存校の指導内容・方法の改善
- ・社会の進展、生徒のニーズの応じた学科等の設置や改善
- ・ **生徒の多様化と社会の変化に対応すべく、
総合学科高校やチャレンジスクール等、新しいタイプの学校を設置**

2 チャレンジスクールの設置

Ⅱ 都立高校改革推進計画

第Ⅰ期

H9年度 H10年度 H11年度 H12年度 H13年度 H14年度 H15年度 H16年度 H17年度 H18年度 H19～23年度

「都立高校改革推進計画」(平成9年度～平成18年度)

第一次実施計画
平成9年度から平成11年度(3年間)

第二次実施計画
平成12年度から平成14年度(3年間)

新たな実施計画
平成15年度から平成18年度(4年間)

計画継続期間
平成19年度から
平成23年度
(5年間)

計画の目的

急激な生徒数の減少や生徒の多様化に対応するため、

① **都立高校の適正な規模と配置**を進めつつ、② **学校の個性化・特色化**を推進

主な取組

① 全日制：208校(H9)→179校(H23)、定時制：103校(H9)→55校(H23)

② 総合学科やチャレンジスクール等の設置、普通科の特色化（進学指導重点校、エンカレッジスクールの指定）

第Ⅱ期（現行計画）

H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度 R4年度開設

「都立高校改革推進計画」(平成24年度～令和3年度)

第一次実施計画
平成24年度から平成27年度(4年間)

新実施計画
平成28年度から平成30年度(3年間)

新実施計画(第二次)
令和元年度から令和3年度(3年間)

小台橋高校(チャレンジ)

立川高校(創造理数科)

立川国際中等教育学校附属小学校

計画の目的

「知識基盤社会」の到来や教育基本法改正等を踏まえ、

生徒を「**真に社会人として自立した人間に育成する**」ことを目的として多様な取組を展開

主な取組

- ▶ 教育内容：理数教育の推進、次世代リーダー育成道場（高校生留学支援）の実施
- ▶ 学科改編等：国際バカロレアの推進、家庭・福祉高校や小中高一貫校等の設置
- ▶ 教育諸条件：指導教諭の配置、自立支援チーム（ユースソーシャルワーカー）の派遣

2 チャレンジスクールの設置

Ⅲ チャレンジスクールの設置状況

稔ヶ丘高校
(H19開校、8C・960人)

桐ヶ丘高校
(H12開校、6C・720人)

小台橋高校
(R4開校、9C・1080人)



立川地区チャレンジスクール
(R7開校予定、6C・720人)

世田谷泉高校
(H13開校、6C・720人)

六本木高校
(H17開校、6C・720人)

大江戸高校
(H16開校、6C・720人)

目次 Contents

1 都立高等学校の種類

2

チャレンジスクールの設置

- I 背景
- II 都立高校改革推進計画
- III チャレンジスクールの設置状況

3

チャレンジスクールにおける教育

- I チャレンジスクールの特徴
- II 学びの特徴、系列の設置
- III 相談機能の強化
- IV 特徴的な取組

4

チャレンジスクールの今

- I 入学者選抜応募倍率
- II 中途退学率と不登校出現率の推移
- III 進路実績の推移

3 チャレンジスクールにおける教育

I チャレンジスクールの特徴（(1) 時程など）

- ・ 定時制課程（昼夜間三部制）、単位制、**総合学科**
午前（Ⅰ部）、午後（Ⅱ部）、夜間部（Ⅲ部）

※ 1日12時間授業

※ 各部の授業は1日4時間が基本

3年間での卒業に向け、他部の時間帯の授業を選択する者有

時間	8:35~11:55					13:00~16:20					17:25~21:00				
時限	1	2	3	4	昼休み	5	6	7	8	夕休み	9	10	給食 19:00~ 19:25	11	12
Ⅰ部生	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅱ部生			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅲ部生								■	■	■	■	■	■	■	■

- ・ 学級定員 30人
- ・ 入学者選抜 志願申告書・作文・面接

3 チャレンジスクールにおける教育

I チャレンジスクールの特徴 ((2) 教育課程)

例1 大江戸高校

教育課程表 (令和4年度入学生の例)

単位 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	LHR	他部履修
1年	現代の 国語		歴史総合		数学Ⅰ		科学と 人間生活		体育	保健		芸術Ⅰ ※2	英語 コミュニケーションⅠ	情報 基礎	産業社会 と人間		生活 実践 ※1		LHR	自由選択 (0~10単位)	
2年	言語文化		公共		生物基礎		体育	保健	家庭基礎		情報Ⅰ	地域理解	系列選択				LHR	自由選択 (0~10単位)			
3年	地理総合		体育		総合研究		系列選択				自由選択					LHR	自由選択 (0~10単位)				
4年	テーマ 研究	自由選択																		LHR	自由選択 (0~10単位)

例2 穂ヶ丘高校

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
1年次	HR	現代の国語	言語文化		数学Ⅰ				英語 コミュニケーションⅠ	情報Ⅰ	体育	保健	人間と社会	コーピング															
2年次	HR	国語常識	公共	数学A	理科選択	論理・表現Ⅰ	家庭基礎	芸術選択	体育	保健	産業社会と人間																		
3年次	HR	地理総合	理科選択	体育	体育α	キャリア	キャリア																						
4年次	HR	体育	歴史総合	キャリア																									

理科選択は4単位or6単位
基礎*1科目+科学と人間生活
または
基礎*3科目
基礎*: 物理基礎・化学基礎
生物基礎・地学基礎

芸術選択は
音楽Ⅰ・美術Ⅰ
工芸Ⅰ・書道Ⅰから選択
(同時に2科目履修はできません)

自部+他部で3年卒業が可能

3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅱ チャレンジスクールの特徴（(3) 系列）

科目選択の際、目安となるよう相互に関連する科目をまとめたグループ

生活・福祉 系列	レクリエーション実践、保育音楽Ⅰ/Ⅱ、服飾手芸 子どもの発達と保育、生活と福祉、フードデザイン リビングデザイン、手話・点字、基礎介護、児童福祉 など
情報・ビジネス 系列	簿記、IT基礎、IT演習、ビジネス計算 マーケティング、経済活動と法 コンピュータグラフィックス、マルチメディア など
伝統・文化 系列	茶道・華道、伝統技法、ヴォイスアンサンブル、箏曲 ギター演習、絵画表現、絵画基礎、デザイン表現 デザイン基礎、陶芸、メディア表現、創作書道 実用書道 など

（大江戸高校）

3 チャレンジスクールにおける教育

II チャレンジスクールの特徴（(3) 系列）

各学校で設置する系列の例

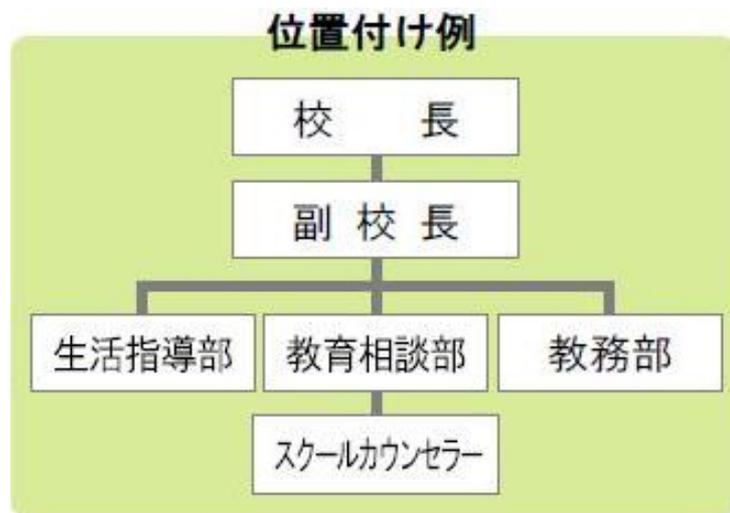
学校名	系列		
桐ヶ丘	福祉・教養	情報・ビジネス	アート・デザイン
世田谷泉	生活・福祉	製作・技術	創作・表現
大江戸	伝統・文化	生活・福祉	情報・ビジネス
六本木	芸術・カルチャー	生活・ウェルネス	情報・サイエンス
稔ヶ丘	情報・デザイン	ビジネス・ コミュニケーション	人間・環境
小台橋	情報・ビジネス	アート・デザイン	人文・自然
立川地区	生活・文化	アート・デザイン	人文・自然

3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅲ 相談機能の強化(1) SC派遣事業

いじめや不登校などの未然防止や改善及び解決に向けた校内の教育相談体制の充実のためSCを派遣

- (1) 児童生徒へのカウンセリング
- (2) カウンセリングに関する教職員や保護者への助言や援助
- (3) 生徒のカウンセリングに関する情報収集
- (4) 生徒のカウンセリングに関する情報収集に関して、配置校の校長や教育委員会が必要と認めた事項



3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅲ 相談機能の強化(2) YSW派遣事業

生徒の社会的な自立に向け、就労や福祉の専門的知識や技術を有するユースソーシャルワーカー等(「自立支援チーム」)を派遣

- (1) 継続派遣校に重点的に派遣
- (2) 学校からの要請に応じた随時派遣

都立高校における不登校・中途退学対策

継続派遣校(40校)に重点的派遣

➤不登校や中途退学者等が多い継続派遣校に、ユースソーシャルワーカーを継続的に派遣

※継続派遣校にチャレンジスクール含

自立支援担当教員 (校内業務を整理)

- | | |
|------------|----------|
| ① 中途退学未然防止 | ② 進路決定支援 |
| ③ 不登校等への対応 | ④ 福祉的支援 |

要請に応じたYSW随時派遣

特に困難なケースへの個別支援

- 長期欠席、生活困窮等
都立学校の要請に応じて派遣
- 福祉支援系YSWを中心に派遣

○ 外国籍生徒への支援

○ 個別困難事案支援

○ 就労支援等

3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅲ 相談機能の強化(3) 校内の相談体制

《入学時情報収集》

【入学前の引き継ぎ（聞き取り）】⇒ 電話 訪問等

【入学準備説明会】⇒ 説明後面談（希望者）

【入学後】⇒ 保護者と生徒へのアンケート実施
⇒ 担任面談 SC面談

本人からの申請

保護者の申請

担任の勧め

養護教諭の勧め

《教育支援委員会による支援の検討》

管理職 コーディネーター 養護教諭 生活指導部 進路指導部 各学年

担任 SC 特別支援教育心理士
フレンドシップアドバイザー YSW 発達障害教育支援員
精神科医（校医） 自立支援チーム 関係機関等

3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅲ 相談機能の強化(4) SC・YSW派遣事業まとめ

○自立支援担当教員の指定（平成28年度開始）

- ・ 自立支援チームや関係機関との調整を図り、校内の支援体制の整備に中心的な役割を担う自立支援担当教員を指定
- ・ 養護教諭が自立支援チームに関与できるように、養護教諭を補助するアシスタント職を配置

○スクールカウンセラーの配置

- ・ 平成24年度開始 全都立高校に配置
- ・ 平成28年度開始 全課程に拡充して配置
- ・ 令和元年度開始 シニア・スクールカウンセラー配置（モデル事業）

○精神科医の活用

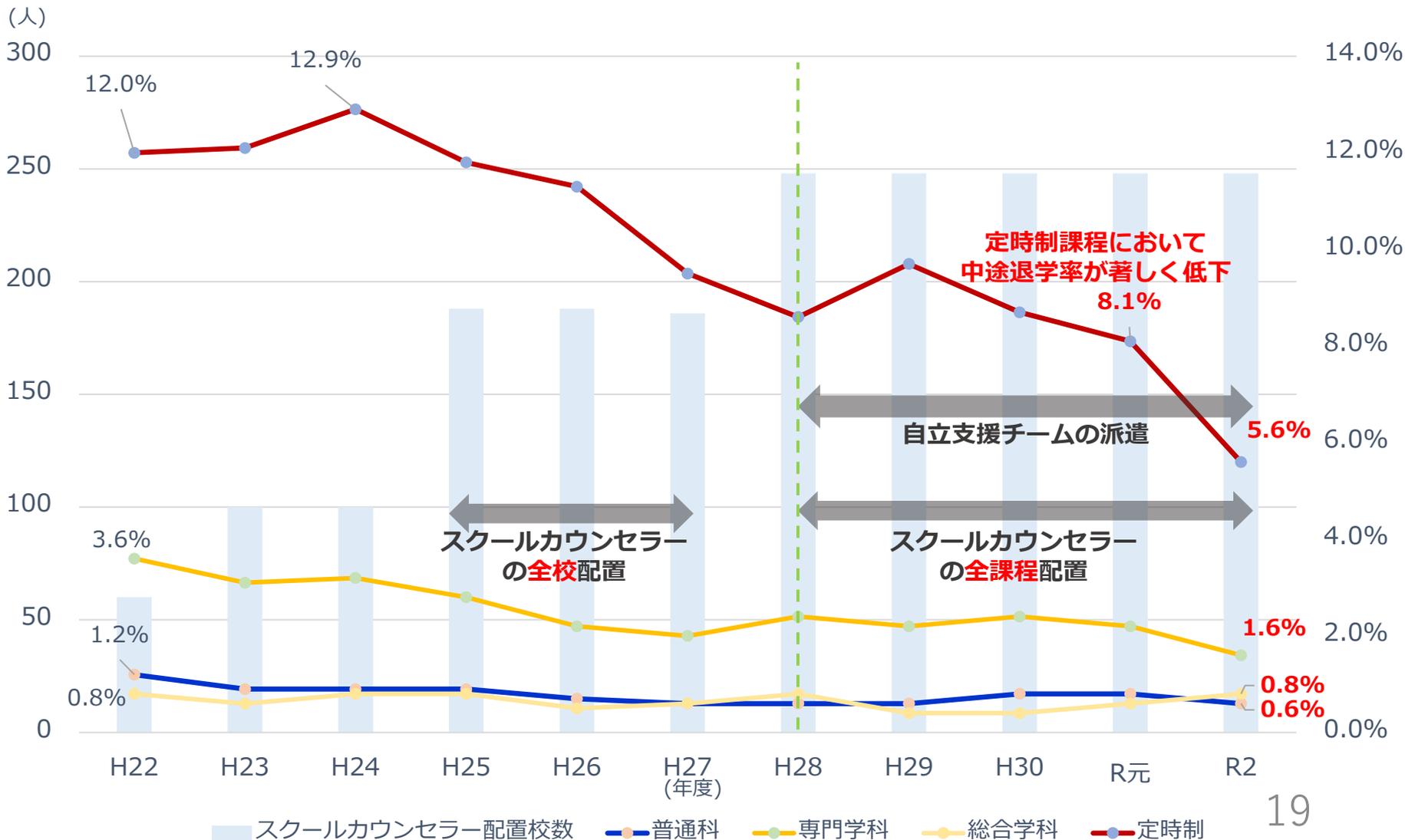
- ・ 平成22年度開始 専門医派遣事業（精神科）
- ・ 平成26年度開始 チャレンジスクール等に精神科医の配置（学校医）

○自立支援チームによる支援

- ・ 学校に対し、学校経営支援センターの自立支援担当の学校経営支援主事等と連携しながら、自立支援チームを派遣し、一人一人の生徒に応じた支援を実施
- ・ 平成28年度開始 ユースソーシャルワーカー(YSW)とユースアドバイザー(YA)により構成される自立支援チーム派遣
- ・ 平成30年度開始 ユースソーシャルワーカー（主任）を配置
- ・ YSWを中途退学等の課題を抱える高校へ派遣するとともに、YAがYSWに対するマネジメント・アドバイス等を実施
- ・ 学校と連携し、中途退学の未然防止や不登校生徒への支援、生徒及びその家族が抱える課題への福祉的支援、都立高校を中途退学した生徒への就労・再就学支援を実施

3 チャレンジスクールにおける教育

Ⅲ 相談機能の強化(5) 効果（中途退学率とスクールカウンセラー設置校数）

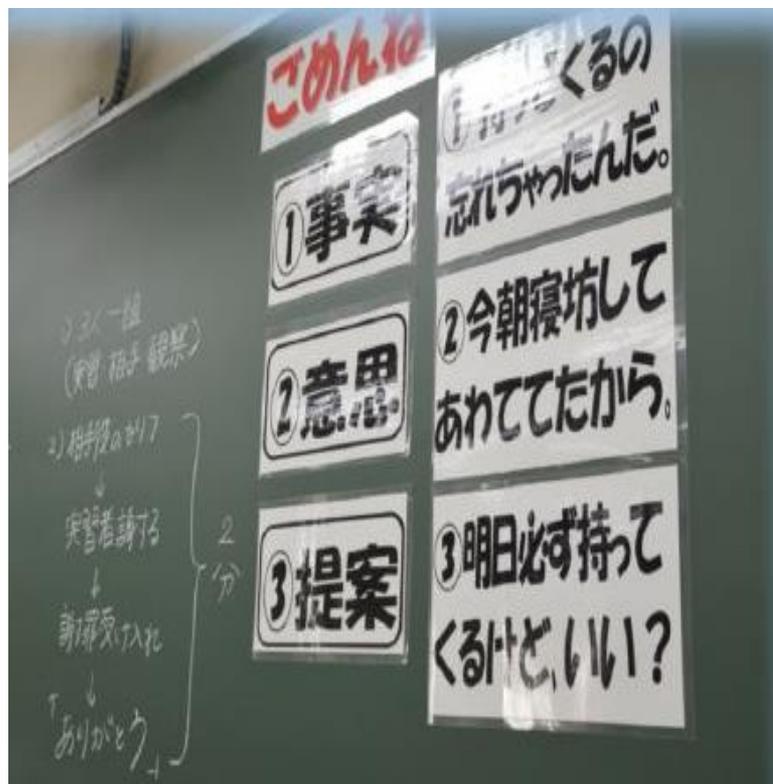


(※H28年度からは配置課程数)

3 チャレンジスクールにおける教育

IV 特徴的な取組(1) コーピングメソッド

- ・ 人間関係におけるストレスにうまく対処し、生徒が自分の力で人生の諸課題に対処し、解決していく力を身につけるための必修科目
- ・ 早稲田大学人間科学学術院の菅野教授、嶋田教授指導のもと、共同開発したプログラム
- ・ 情動、認知、行動という3本の柱に導入と総合の単元を加えて実施



どうしたら会話が弾むのかな？

先生方が、2つの会話の例を読みます。どうしたら会話が弾むのが、考えてみてください。

会話1

Aこないだの日曜、何してたの？

B寝てた

A何もしなかったの

Bうん

Aテレビは見なかったの

B見なかった

A (沈黙)

会話2

Aこないだの日曜、何してたの？

B寝てた。気づいたら午後で12時間も寝ちゃったよ！

Aへえ、12時間も？

Bうん、でも、最高15時間寝たことあるよ。

Aすごいーい！そんなに寝てお疲れない？

Bうん、さすがに寝過ぎて目が覚めた。

Aははは

Q. 会話1と会話2では、Bの答え方が、どう違いますか？

気になる答えは授業で！

他にも、上手な聞き方や断り方など、コミュニケーションに必要な技術を学びます。



3 チャレンジスクールにおける教育

IV 特徴的な取組(2) 数学や英語の授業時数を確保

- 数学や英語の時間数を標準時間数よりも多く配当し、考えさせ、理解できるまで焦らず指導

単位数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
1年次	HR	現代の国語	言語文化	数学Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	情報Ⅰ	体育	保健	人間と社会	コーピング																				
2年次	HR	国語常識	公共	数学A	理科選択	論理・表現Ⅰ	家庭基礎	芸術選択	体育	保健	産業社会と人間																			
3年次	HR	地理総合	理科選択	体育	体育α	キャリア																								
4年次	HR	体育	歴史総合	キャリア																										

理科選択は4単位or6単位
 基礎★1科目+科学と人間生活
 または
 基礎★3科目
 基礎★：物理基礎・化学基礎
 生物基礎・地学基礎

芸術選択は
 音楽Ⅰ・美術Ⅰ
 工芸Ⅰ・書道Ⅰから選択
 (同時に2科目履修はできません)

自部+他部で3年卒業が可能

3 チャレンジスクールにおける教育

IV 特徴的な取組(3) 構成的グループエンカウンター

- ・ 集団学習体験を通して、自己発見による行動の変容と人間的な自己成長をねらい、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法
- ・ 課題は、自己理解、他者理解、自己主張、自己受容、信頼体験、感受性の促進の6点
- ・ 定時制課程、1学年生徒、講師を派遣



グループエンカウンター連絡会〔チームビルディング(人間関係作り)の様子〕 (R1)

目次 Contents

1 都立高等学校の種類

2 チャレンジスクールの設置

- I 背景
- II 都立高校改革推進計画
- III チャレンジスクールの設置状況

3 チャレンジスクールにおける教育

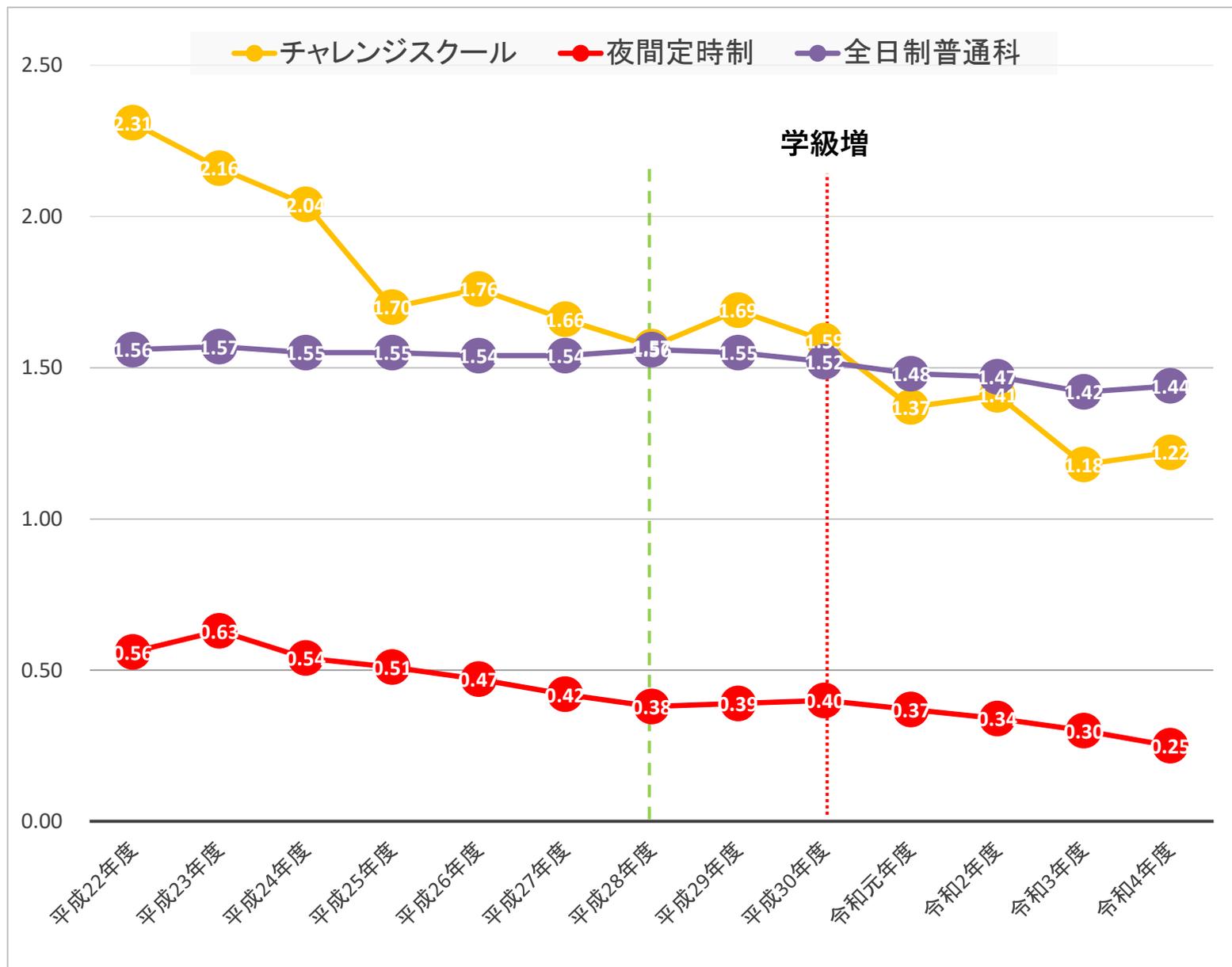
- I チャレンジスクールの特徴
- II 学びの特徴、系列の設置
- III 相談機能の強化
- IV 特徴的な取組

4 チャレンジスクールの今

- I 入学者選抜応募倍率
- II 中途退学率と不登校出現率の推移
- III 進路実績の推移

4 チャレンジスクールの今

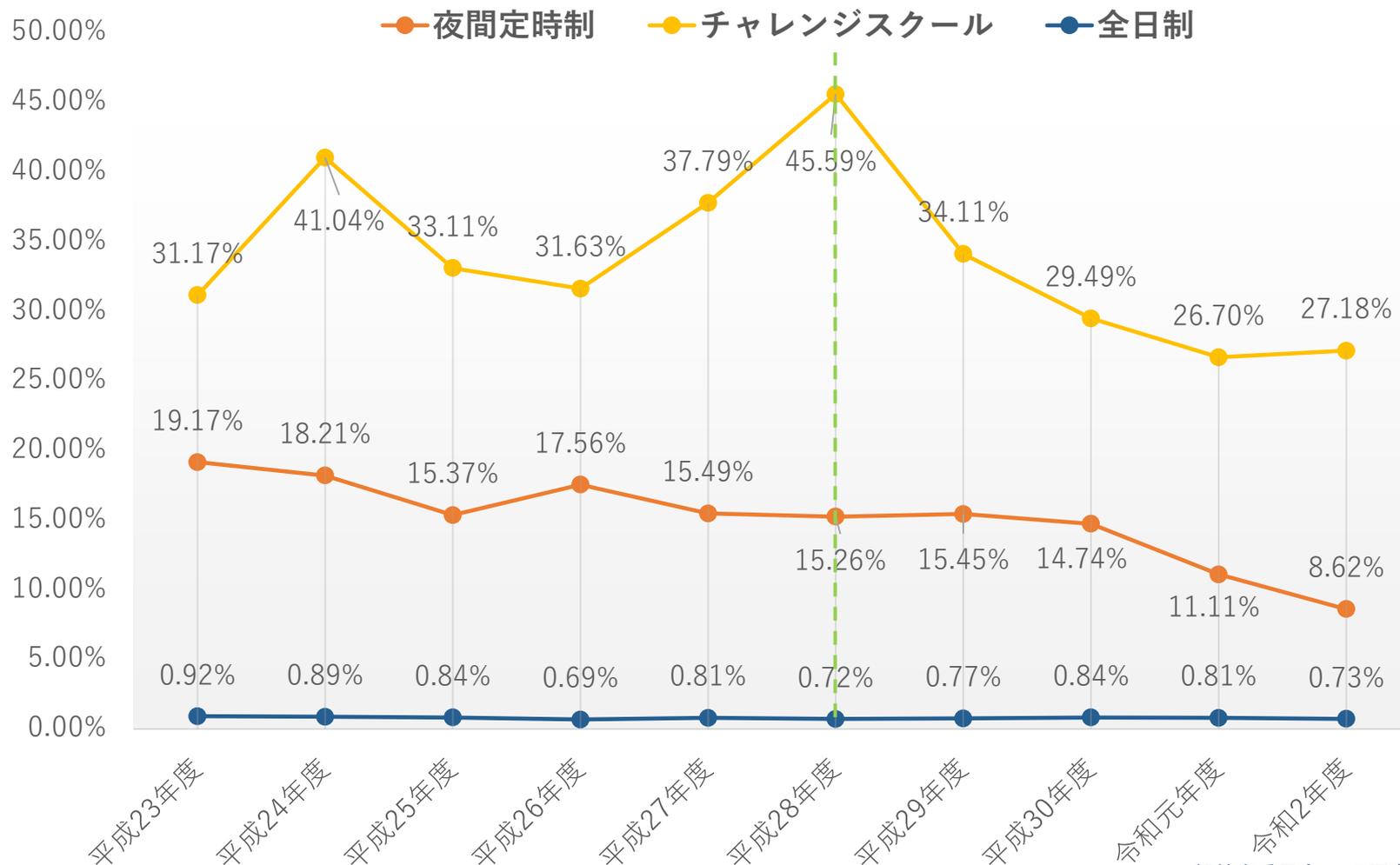
I 入学者選抜応募倍率（一次募集）



4 チャレンジスクールの今

II 中途退学率と不登校出現率の推移

不登校出現率（不登校生徒数/総生徒数）

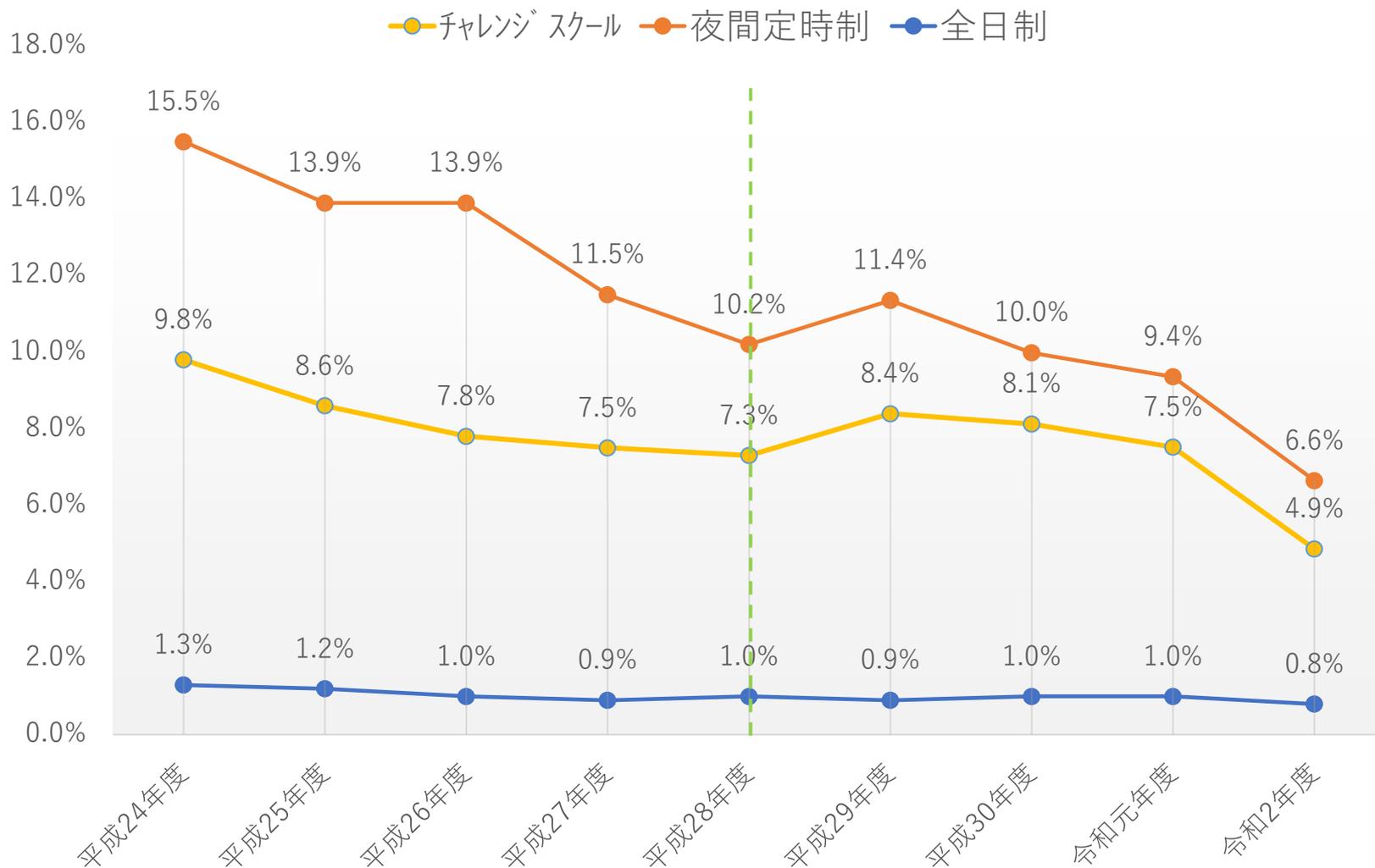


都教育委員会による調査

4 チャレンジスクールの今

II 中途退学率と不登校出現率の推移

中途退学率

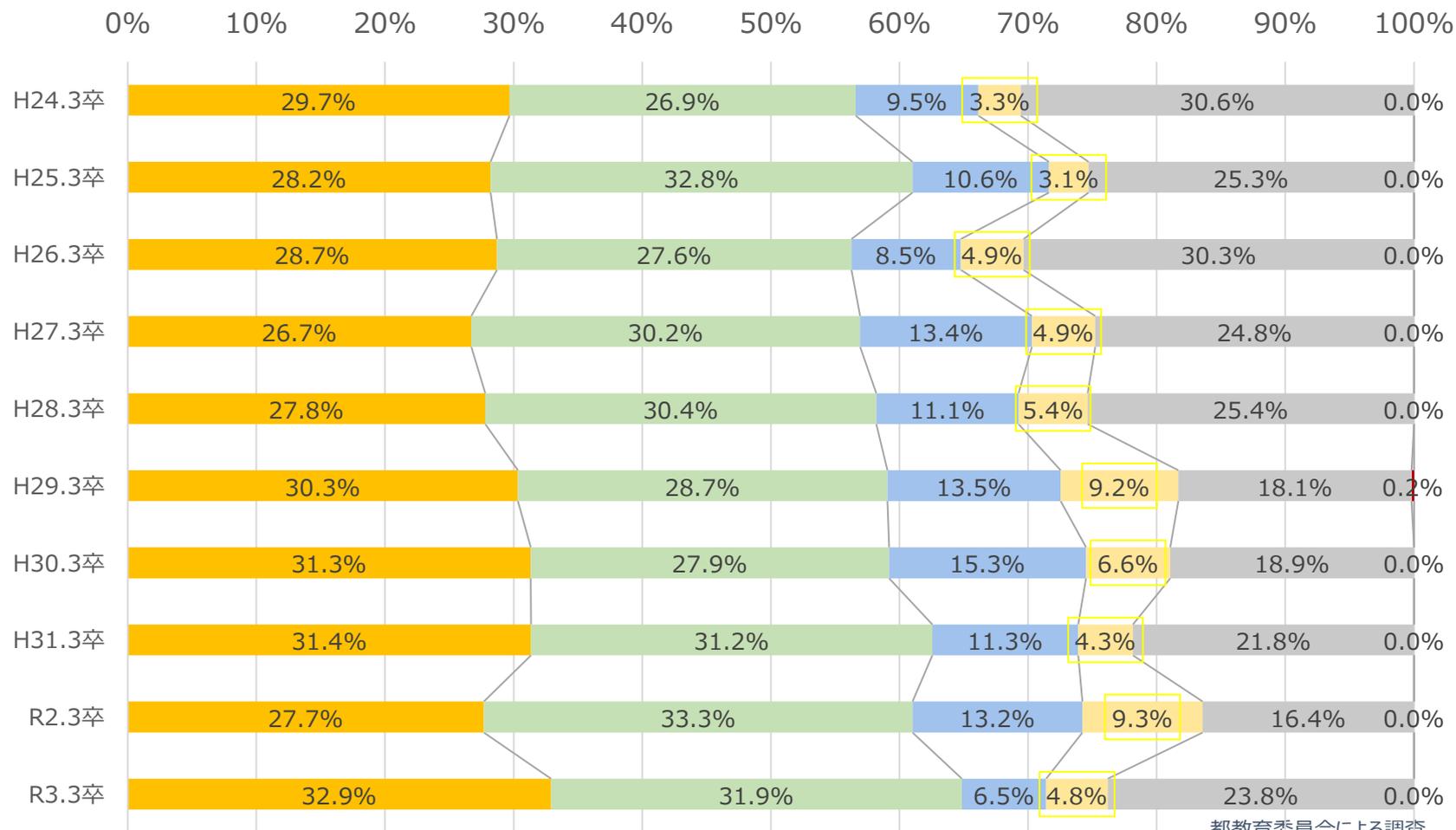


都教育委員会による調査

4 チャレンジスクールの今

Ⅲ 卒業生の進路実績の推移

■ 進学者 ■ 専修学校等入学者 ■ 就職者 ■ 一時的な仕事に就いた者 ■ その他 ■ 不詳・死亡



都教育委員会による調査